

**製品名: AFP アルファ 1 フェトプロテイン(17C5)マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM06666**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	AFP
別名	AFP; HPAFP; Alpha-fetoprotein; Alpha-1-fetoprotein; Alpha-fetoglobulin
遺伝子 ID	174.0
SwissProt ID	P02771
免疫原	AFP アルファ 1 フェトプロテインの合成ペプチド

**背景**

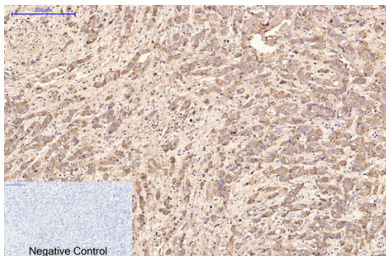
この遺伝子は、胎児期に卵黄嚢と肝臓で産生される主要な血漿タンパク質である  $\alpha$ -フェトプロテインをコードします。成人における

$\alpha$ -フェトプロテインの発現は、しばしば肝細胞癌または奇形腫と関連します。しかしながら、明らかな病理所見のない個人においても、 $\alpha$ -フェトプロテインの遺伝的持続が認められる場合があります。このタンパク質は血清アルブミンの胎児期対応物と考えられており、 $\alpha$ -フェトプロテイン遺伝子とアルブミン遺伝子は4番染色体上に同じ転写方向で並んで存在します。 $\alpha$ -フェトプロテインは単量体だけでなく、二量体および三量体としても存在し、銅、ニッケル、脂肪酸、ビリルビンと結合します。羊水中の $\alpha$ -フェトプロテイン濃度は、二分脊椎および無脳症のスクリーニングにおける腎タンパク質損失の測定に用いられます。[RefSeq提供、2008年7月]、発育段階：4週齢以上の胎児の血漿中に存在し、妊娠12~16週目に最高値に達し、出生後は微量まで減少します。成人の血清中濃度は通常40 ng/ml未満です。AFPは、肝細胞癌の成人の血漿および腹水にも高濃度で存在します。機能：銅、ニッケル、脂肪酸と結合しますが、ビリルビンとは血清アルブミンよりも結合力が低くなります。ヒトAFPのごく一部(2%未満)のみがエストロゲン結合特性を示す。オンライン情報：アルファフェトプロテイン (AFP) のエントリー、PTM：独立した研究により、成熟タンパク質のN末端配列とシグナル配列の切断部位に不均一性があることが示唆されている。PTM：硫酸化されている。類似性：ALB/AFP/VDBファミリーに属する。類似性：3つのアルブミンドメインを含む。サブユニット：単量体に加えて、二量体および三量体も確認されている。組織特異性：血漿。胎児の肝臓と卵黄嚢で合成される。

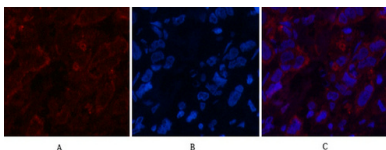
## 研究分野

心血管; 血液; 血清タンパク質; 癌; 腫瘍バイオマーカー; 腫瘍抗原; 発生; 生物学; 器官形成; 腸管発生; 肝臓発生; キット/溶解物/その他; キット; ELISAキット; 心血管 ELISAキット

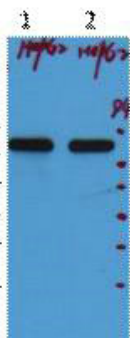
## 画像データ



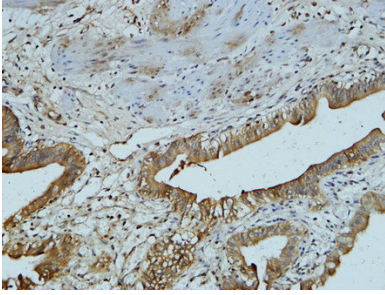
パラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。1. AFP $\alpha$ 1 フェトプロテインモノクローナル抗体 (17C5) を1:200に希釈(4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈(室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



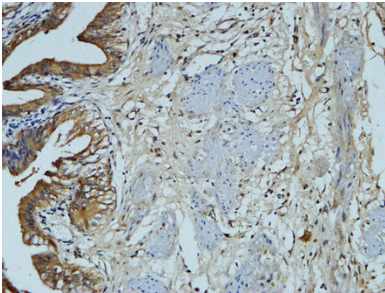
ヒト乳がん組織の免疫蛍光染色。1, AFP  $\alpha$ 1 フェトプロテインモノクローナル抗体 (17C5) (赤) を1:200に希釈(4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI (青) 10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



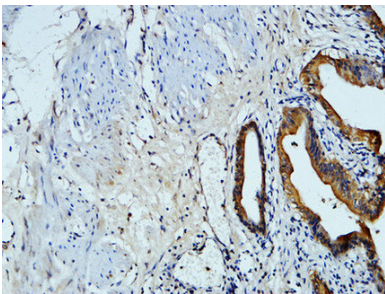
1:2,000に希釈したHepG2のウェスタンプロット分析。



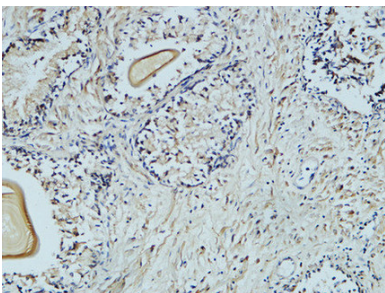
パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



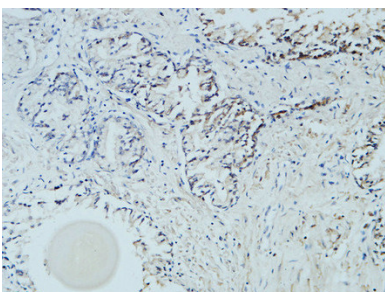
パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



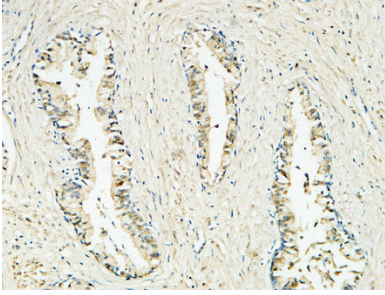
パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト前立腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト前立腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト前立腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。